

指導助言者：徳島県教育委員会 学校教育推進担当 指導主事 河野 豊司 氏

- ・ 本時の研究授業は、令和4年度より年次進行で適用される新学習指導要領において実施されることが期待される教科横断型授業であった。「現代社会」と「家庭基礎」をSDGsをキーワードとして繋ぎ、それぞれの科目の学びの視点である「見方・考え方」に基づき生徒の活動が展開された。

この単元学習では、育成すべき資質・能力として、「科学的思考力」を定め、「課題理解・発見力」、「考察・統合力」を身につけることができるよう構成されている。家庭基礎「これからの消費生活と環境」、現代社会「豊かな生活の実現」が各科目における該当単元である。

- ・ 本時の目標として、
  - ①自分自身の日常生活を見直し、コロナ禍における「新しい生活様式」をSDGsの視点から考える。
  - ②様々な社会問題の解決の糸口が日々の学びや自分たちの行動にあることを知る。と設定されており、授業導入で本時の目標を示し、「この授業で何をすべきか」をはっきり理解させていた。この点は、非常に重要であり生徒に授業のゴールを示した点は大いに参考になる。これまでの学習の振り返りも、流れ、発表のポイントも電子黒板を活用して説明されており、効率よく授業が展開されていた。
- ・ 生徒の発表は、身近な課題に対し、各班が、資料データを収集、選択、活用し問題点や解決策を論理的に発表されており、家庭科で学んだ視点、現代社会で学んだ視点を活用し発表につなげていた。また、発表後に家庭科担当教員、公民科担当教員の質問も、発表した生徒だけでなく、聞いている生徒の思考を揺さぶるきっかけとなるものであり、教科横断型ならではの「見方・考え方」を通した学びの姿を感じられた。
- ・ 発表の導入部分では、「家庭科」の視点多く感じられた。課題の設定によってはやむをえない部分もあるが、問題点を、「世界の視点から考える」と「自分たちの身近な生活から見る」というように分けて考えさせると、両科目の視点を活用しての思考がより多く見られたのではないかと。
- ・ 生徒の発表が最後まで出来なかったのは残念である。単元構成や時間配分を見直し、計画段階より生徒発表に多く配分することが望ましい。しかし、限られた時間の中で今後は、タブレットなどを上手く活用して効率よく展開していくことが課題である。
- ・ 本授業の目標を念頭に置いて活動することで、自分たちの「よりよい家庭生活の構築」は、「より良い社会の構築」につながる事を理解できたのではないかと。

指導助言者：徳島県教育委員会 キャリア・消費者教育担当 指導主事 白濱 真紀子 氏

- ・ 自分自身の生活の課題を解決することが、SDGs を実現することにつながるということに気づかせようとする視点が大変よかった。
- ・ 生徒は調べたこと等をスライドに上手にまとめることができていた。
- ・ 生徒は、この授業によって、各教科の学びが独立しているのではなく、リンクしていること、いろいろな教科で学んだことを結び付けて課題を解決していくことができる、ということに気づいたと思われる。
- ・ 自分自身の生活の課題と社会や世界の課題のつながり、自分自身の生活の課題を解決することが社会や世界の課題を解決する（SDGs の実現）ことにつながっていく、ということが、みてとれるようなワークシート（スライド？）になっていけばなおよかったと感じた。
- ・ 家庭科の視点からの課題解決が多かったように感じた。前時までの過程で、公民の視点での課題解決、ものの見方について、ヒントになるような教師からの働きかけがあればよかった。（あったのかもしれないが）